身の丈ITの推進

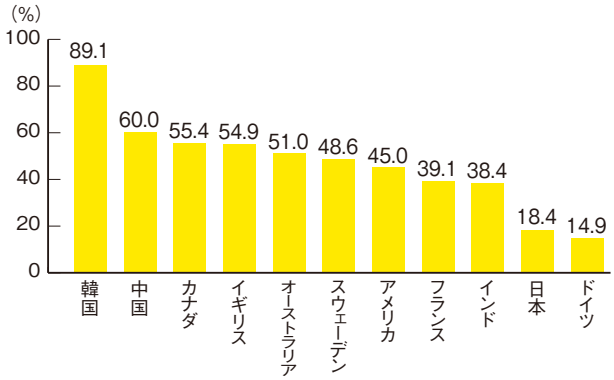
キャッシュレス導入で売上げアップを目指す！

少子高齢化や人口減少に伴う労働人口減少、売上減少の時代を迎え、キャッシュレスの推進は、実店舗の省力化や売上チャンスの創出、さらには支払いデータの利活用による消費の利便性向上や消費の活性化等、様々なメリットが期待されます。

海外ではキャッシュレス決済が急速に進んでおり（下グラフ参照）、日本政府も現在約20％のキャッシュレス決済比率を、将来的には、世界最高水準のキャッシュレス決済比率80％を目指し、必要な環境整備を進めていくとしております。

これから日本は国際的なイベントが数多く予定されており、2019年にはアジア初開催となるラグビーワールドカップや2020年にはオリンピックなど、キャッシュレス決済に慣れた外国人観光客がますます増えてくることが見込まれます。急増するインバウンド需要を効果的に取り込むためにも、キャッシュレス決済の推進は取り組むべき課題です。

■各国のキャッシュレス決済比率の状況（2015年）



（出典）世界銀行「Household final consumption expenditure（2015年）」及び
BIS「Redbook Statistics（2015年）」の非現金手段による年間決済金額から算出
※中国に関してはBetter Than Cash Allianceのレポートより参考値として記載

■キャッシュレス決済の主な種類

	プリペイド	リアルタイムペイ		ポストペイ
支払の形態	前払い	即時払い		後払い
主なサービス例	電子マネー（交通系、流通系）	デビットカード（銀行系、国際ブランド系）	モバイルウォレット（QRコード、NFC等）	クレジットカード（磁気カード、ICカード）
特徴	利用金額を事前にチャージ	リアルタイム取引	リアルタイム取引	後払い、与信機能

（出典）経済産業省「キャッシュレス・ビジョン」

事業者がキャッシュレス決済を取り入れるメリット

会計処理が楽になる

キャッシュレス化によって、受領した現金の確認、レジへの金額入力、釣り銭の受け渡しなどが無くなります。加えて、現金の数え間違いや入力誤りといったリスクを軽減させ、よりスムーズな会計処理を行うことができます。さらにクラウド会計ソフトと連動させることで、売上データが自動で会計ソフトに取り込まれ、そのまま日次の売上データや帳簿作成に反映されるため、会計業務の負荷を大幅に軽減させることも可能となります。

現金管理の手間が省ける

キャッシュレス決済にすることで、現金と売り上げを照らし合わせるレジ締め処理が不要になります。売り上げはすべてデータ化されるほか、レジの入力ミスなどが起こりません。また、閉店後のレジ締め作業がなくなることで、業務効率化や人件費の抑制にもつながります。

客数・客単価が上がる

お客様にとっては、手元に現金がなくても商品が購入できるため、商品を売るチャンスを逃さずに済みます。また、インバウンド需要を取り込むことで集客力の向上が期待できます。さらに、売上をデータ化することも容易になるため、購買行動を分析することで売上アップや、仕入れの効率化による利益率向上にもつながります。

福岡商工会議所では今年度の重点項目に「IT・ICTの活用による生産性向上支援～身の丈ITの徹底普及による労働生産性の向上～」を掲げ、身の丈ITの徹底的な普及を促進し生産性向上を図るとともに、売上アップの仕組みづくりを支援することにより、中小企業の持続的発展の実現に取り組んでいます。その一環として、『IT導入補助金&クラウド活用セミナー』や、福岡市と連携して『キャッシュレスFUKUOKAフェア』の開催・キャッシュレスの実証実験等を通した中小企業の生産性向上支援を積極的に進めています。
なお、5月から12回に分けて開催しました『IT導入補助金&クラウド活用セミナー』も、残り9月20日（木）、9月27日（木）の2回を残すのみとなりましたが、10月以降も開催を予定しております。詳細は当所HPでご確認ください。

IT導入補助金&クラウド活用セミナー風景

お問い合わせ／経営支援グループ　TEL 092-441-1146